

バランスの良い食事で
免疫力 UP! 毎日果
物 200g食べましょう。

第26回全国果樹技術・ 経営コンクール表彰式の開催

p1

果樹を巡る動き

・果樹生産性向上セミナー(令和6年度産地構造転換パイロット事業(全国推進事業))について

p4

中央果実協会からのお知らせ

・令和6年度果樹農業における担い手の育成・確保及び活躍表彰の受賞者の取組みと事例発表会

p6

業務日誌、人事異動

p8



第26回全国果樹技術・経営コンクール表彰式の開催

本コンクールは、果樹の生産技術や経営方式において他の模範となる先進的な農業者、生産集団等を表彰し、その成果を広く普及することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として、平成11年度から毎年度開催しています。

主催団体は、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本園芸農業協同組合連合会、全国果樹研究連合会、公益財団法人中央果実協会の5団体であり、農林水産省及び日本農業新聞からの後援をいただいています。

令和6年度は、第26回目となり、全国の都道府県段階の選考を経た17件の応募の中

から、農林水産大臣賞、農林水産省農産局長賞、各主催団体賞が決定されました。令和7年2月20日に農林水産省松尾農産局長のご臨席のもと、法曹会館(東京都千代田区霞が関)にて表彰式が盛大に開催されました。

表彰式では、賞状等の授与の後、受賞者を代表して愛媛県の忽那(くつな)さんご夫妻から「受賞者のことば」が述べられました。

農林水産大臣賞受賞者の概要を3頁に紹介します。



村上中央果実協会理事長の挨拶



受賞者代表による「受賞の言葉」
(左:忽那夫妻、右:松尾農産局長)



受賞者・来賓・主催者の集合写真

第26回全国果樹技術・経営コンクール 受賞者一覧(敬称略)

農林水産大臣賞

氏名・集団名	住 所	
とどめ ひでき とどめ さちこ 留目 秀樹・留目 佐智子	なんぶちよう 青森県南部町	おうとう、りんご
あわの としひろ 粟野 寿広	しもつまし 茨城県下妻市	なし
くつな しげお くつな ようこ 忽那 恵雄・忽那 葉子	まつやまし 愛媛県松山市	柑橘
ふくおかやめ 福岡八女農業協同組合ぶどう部会	やめし 福岡県八女市	ぶどう

農林水産省農産局長賞

氏名・集団名	住 所	
うるしやま かずし うるしやま ようこ 漆山 和志・漆山 陽子	なんようし 山形県南陽市	ぶどう
のざわ のぼる 野沢 昇	やまなしし 山梨県山梨市	ぶどう
こんどう きみお こんどう きょうこ 近藤 喜美雄・近藤 京子	しずおかし 静岡県静岡市	柑橘
ながた ひろとし 永田 広敏	かりやし 愛知県刈谷市	ぶどう
やまだ ひとし 山田 均	ゆりはまちよう 鳥取県湯梨浜町	なし
ふえふき やつしろしよやつしろどうごうもも 笛吹農業協同組合八代支所八代統合桃部会	ふえふきし 山梨県笛吹市	もも
たなべし 田辺 印の会	たなべし 和歌山県田辺市	うめ

関係団体賞

【全国農業協同組合中央会会長賞】

のべ かずや のべ ようこ 野辺 和哉・野辺 容子	くしまし 宮崎県串間市	施設キンカン
------------------------------	----------------	--------

【全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞】

あまがせ JAおおいた天瀬ぶどう部会	ひたし 大分県日田市	ぶどう
-----------------------	---------------	-----

【日本園芸農業協同組合連合会会長賞】

しらかわ とおる しらかわ あきこ 白川 徹・白川 明子	みとよし 香川県三豊市	うんしゅうみかん
ほり あきとし ほり えり 堀 秋利・堀 衣梨	いさはやし 長崎県諫早市	うんしゅうみかん(施設)

【全国果樹研究連合会会長賞】

かみやま JA徳島県神山すだち振興部会	かみやまちょう 徳島県神山町	スダチ
------------------------	-------------------	-----

【中央果実協会理事長賞】

みやご えいこ 宮後 英子	ななえちよう 北海道七飯町	りんご・プルーン
------------------	------------------	----------



大臣賞受賞者

左から(敬称略)

- ・留目秀樹・留目佐智子
- ・粟野寿広
- ・忽那葉子・忽那恵雄
- ・福岡八女農業協同組合ぶどう部会

農林水産大臣賞受賞者概要

高品質安定生産と省力化技術により高収益経営を確立、青森県のおうとう生産の中心的存在として活躍 — 留目 秀樹さん・留目 佐智子さん(青森県 南部町)



雇用と省力化技術の積極的導入により大規模なし経営を確立し産地の維持発展にも尽力 — 栗野 寿広さん(茨城県 下妻市)



青森県初のおうとう加温栽培を確立、りんごでは積極的に省力化、ジュノハートやふじ、ぐんま名月などのインターネット販売、ギフト販売により収益向上

- 高い栽培技術により青森県初のおうとう加温栽培に取り組み、地域に適した技術を確立し、高品質・安定生産を実現。近年では、新品種「ジュノハート」の加温栽培も導入。りんごでは、摘花・摘果剤の利用や着色系統の導入により積極的に省力化。
- 顧客の利便性を高め、宅配やインターネット販売へと販路を拡大。高級百貨店向け鏡詰め出荷やギフト商品で収益性を向上。
- 女性が働きやすい環境づくりに注力し、家事や子育ての合間に働けるよう、15分単位の時給制を導入。省力技術導入による労働力の均一化や効率化を実現。
- 青森県農業経営士や農協果樹部会役員として地域農業をけん引。講師活動や研修生受け入れを通じて、全国各地の生産者や後継者の育成に貢献。

近隣の園地を集積しジョイント栽培による早期成園化・省力化を推進、園地拡大に対応するための雇用確保により大規模なし経営を確立

- 茨城県最大級の4.1haのなし園を経営し、「下妻甘熟梨」の商品開発やタイでのPR活動を通じて地域ブランドを海外へ発信。
- ジョイント栽培を導入し、早期成園化や摘果・剪定の労働時間削減を実現、効率的で持続可能な大規模経営を展開。
- 産地で初めて常時雇用を導入し、家族経営の限界とされる2haを超えた規模拡大に成功、新規就農者の育成や研修生指導を通じて地域農業の担い手を確保。
- 環境に優しい農業を実践し、県GAP認証を取得、地域全体の農業発展と「下妻甘熟梨」のブランド力向上に貢献。

紅まどんな、せとかなどへの品種更新や、マルチハウス導入などの品質向上対策を行い大規模柑橘経営を実践 — 忽那 恵雄さん・忽那 葉子さん(愛媛県 松山市)



徹底した栽培指導と品質管理により市場評価を向上させ、多様な作型による長期出荷で有利販売を実現 — 福岡八女農業協同組合ぶどう部会(福岡県八女市)



新柑橘品種の導入を次々と進め、平坦地への移行、タイベックマルチ被覆などにより高品質安定生産を達成

- 愛媛果試第28号(紅まどんな)やせとかなどの新品種導入を積極的に進め、高品質柑橘の安定生産を実現、地区平均を上回る高単価を達成。
- 平坦地を中心にタイベックマルチ被覆を導入した効率的なハウス栽培や、長年培った経験による適期作業の徹底により、品質向上と高収益を実現。
- 家族で6.5haの大規模経営を実践し、営農研究会を立ち上げ地域の技術向上と生産者の所得増加に貢献。
- GAP手法を活用して徹底した安全管理と、生産履歴台帳の記帳による食の安全管理を徹底。

構成員318名でシャインマスカット、ピオーネなどを高品質安定生産、食味重視、市場ニーズ対応の販売戦略によりJAふくおか八女ブランドを確立

- 巨峰やシャインマスカットなどの高品質ぶどうを生産、徹底した栽培指導と品質管理により市場評価を向上、農家所得増加と新規就農者確保に貢献。
- 電照栽培や環状剥皮技術の先駆的導入により、高品質果実の安定生産を実現。産地全体の若返りを推進し、ハウス栽培技術の均一化も達成。
- 「八女優良系巨峰・ピオーネ」や食味重視のシャインマスカットなど消費者ニーズに応じた品種と作型を導入、5月～11月の長期販売体制で有利販売を実現。
- 独自のGAP活動を展開し、安全・安心なぶどう生産を推進。市場ニーズに対応した販売戦略で「JA 八女」ブランドを確立。

果樹を巡る動き

果樹生産性向上セミナー（令和6年度産地構造転換パイロット事業（全国推進事業））について

株式会社 ファーム・アライアンス・マネジメント 小林 和敬

我が国の果実は国内外から高く評価されている一方、担い手不足や栽培面積の減少等に伴って生産は減少傾向にあり、国内外の需要に応えきれていない状況です。この状況を解決するためには、生産者だけでなく、流通・加工・販売等に携わる企業・団体が連携し、果樹のサプライチェーン全体でより高い生産性を実現する必要があります。

令和6年度産地構造転換パイロット事業は「パイロット実証事業」と「全国推進事業」で構成されており「パイロット実証事業」は、それぞれ産地単位での先進的な生産性向上を図る取組を実施しており、令和6年度のパイロット実証事業に取り組むコンソーシアム（以下、「実証コンソ」という）は右表の4団体となっております。

全国推進事業（以下、「本事業」という）は、実証コンソを中心とした全国の果樹産地の販売供給の出口を見据えた生産体系の合理化や省力栽培技術の導入、労働力の確保等を図ることで「生産性を飛躍的に向上させた生産供給体制モデルの構築」に向けた取組を支援しています（図1）。

実証コンソは、令和7年2月14日に農林水産省農産局果樹・茶グループとの共同で、果樹生産性向上セミナー（以下、「本セミナー」という）を開催し、現地参加者とりモート参加者あわせて100名以上の農業者、農業団体、自治体・行政機関、流通事業者等が参加しました（写真）。

表 令和6年度産地構造転換パイロット事業(パイロット実証事業)のコンソーシアム一覧

	コンソーシアム名	コンソーシアム代表機関	品目
1	みかん輸出コンソーシアム	株式会社ネイバーフッド	柑橘
2	グローバルぶどう輸出産地協議会	株式会社アグベル	ぶどう
3	静岡県三ヶ日町産地構造転換コンソーシアム	株式会社 AGRI SMILE	柑橘
4	ブドウの省力的な生産・流通体系を普及、実現するためのモデル実証コンソーシアム	Wismettac フーズ株式会社	ぶどう

果樹の生産増大への転換（5. 産地構造の転換に向けたパイロット実証への支援） 産地構造転換パイロット事業

スマート技術導入を前提とした樹園地の環境整備や流通事業者等との連携等、生産性を飛躍的に向上させた生産供給体制モデルを構築する都道府県等コンソーシアムの実証の取組を支援します。併せて、モデルを全国に展開させる取組を支援します。

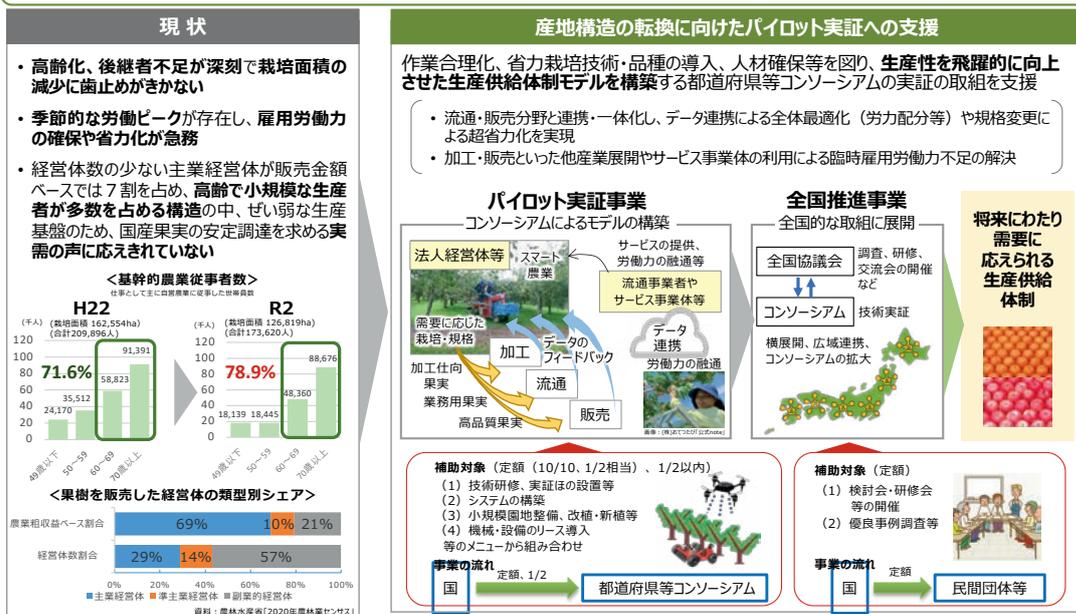


図1 産地構造転換パイロット事業の仕組み

本セミナーでは、まず、農林水産省農産局果樹・茶グループより果樹農業をめぐる現状と課題等についてご紹介があり、果樹農業の振興に関する政策の骨子をはじめ、今後、需要に応える果樹農業の発展に向けて、産地間や産地と実需間との連携の必要性や農林水産省の政策として生産基盤の強化を加速度的に強化していくことが力強く述べられました。



写真 果樹生産性向上セミナー(会場)の様子

次に本事業の事務局より本セミナーの理解を深めるべく、生産性を飛躍的に向上させた「出口を見据えた生産供給体制」のモデルを紹介し、販路を見据えた生産性向上模

討の必要性や4つに類型化したモデルの構築について解説を行いました(図2)。

次に、産地構造転換パイロット事業のうち「パイロット実証事業」に採択されたコンソーシアム4団体から、それぞれの代表機関が本年度の取り組みや成果目標について発表しました。

みかん輸出コンソーシアム(代表機関:ネイバーフード株式会社)は、温州みかんの生産から輸出までの一連のプロセスを最適化し、令和4年度から台湾への直接貿易を開始しました。本パイロット実証事業での目標は、輸出に向けた温州みかんの広域連携を確立し、年間200トンの輸出を目指すことです。今年度は高温障害により収穫量が前年比65%減少し、さらに台湾の輸入規制強化により全ロット検査が必要となり、通関時間が長引くなどの新たな課題が発生しました。本年度の取り組みとして、新たな生産方法の確立、輸送や広域連携の事業者との協力、台湾でのテストマーケティングの結果を前向きに発表しました。

グローバルぶどう輸出産地協議会(代表機関:アグベル株式会社)は、根域制限栽培と将来のAI技術・ロボットの導入を通じて労働集約的な作業の効率化を図り、輸出向け高品質ぶどうの安定供給を目指しています。通常、ぶどうの成園化には約7年かかりますが、根域制限栽培では約4年で可能です。この栽培方法は、

高温障害への対策としても施設内での栽培が可能であり、環境が整った平坦な地でのロボットとの親和性が高いというメリットがあります。現時点の調査結果では、同じ樹齢の根域制限栽培は売上金額が高く、早期収益化が可能であると示されており、労働時間の削減効果やキャッシュフローの改善が大規模栽培の経営指標として紹介されました。さらに、ぶどう以外の施設園芸野菜などからの事業継承の問い合わせなども多く、根域制限栽培の技術を他の農業者に展開する展望が述べられました。

飛躍的に生産性を向上させる生産供給体制モデルとは

- ・ 飛躍的に生産性を向上させる生産供給体制モデル^注とは、『出口を見据え、生産段階だけでなくサプライチェーン全体で、より高い生産性を実現する』取り組みです。
- ・ 取り組みを目的と手段で整理しであり、4つのタイプに類型化しました。

【注】優良事例として普及を図るモデル

- ✓ **生食向け(独自販路型)**
(例) 主に販売単価の向上を目指し、慣行品だけでなく販路に即した栽培体系を目指すモデル
- ✓ **生食向け(効率生産型)**
(例) 主に利益額の向上を目指し、慣行品を効率的に生産する栽培体系を目指すモデル
- ✓ **加工向け大量生産型**
(例) 生産～加工～販売までを一貫体制で行う事業体モデル
- ✓ **輸出特化型**
(例) 輸出などの新たなマーケットの開拓を行うための栽培体系を目指すモデル

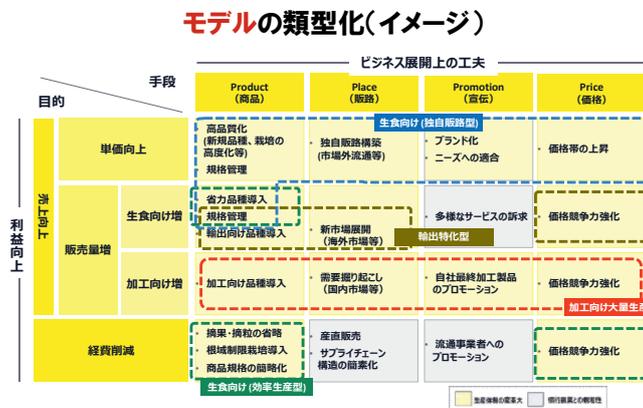


図2 生産性を飛躍的に向上させた「出口を見据えた生産供給体制」のモデル

静岡県三ヶ日町産地構造転換コンソーシアム(株式会社アグリスマイル)は、気候変動により従来の経験や勘が通用しない中、データを用いてサポートするサービス「KAISEKI」を通じて、産地戦略と営農指導に客観性を持たせるアプローチを提供しています。また、JAみっかびでの取り組みの将来展望についても紹介しました。

ブドウの省力的生産・流通体系を普及させるためのモデル実証コンソーシアム(代表機関:Wismettacフーズ株式会社)は、効率の高い栽培方法として海外の多収種を導入し、全量買取の販売モデルを実証しています。令和6年度の取り組みでは、生産から収穫までの作業軽減を目的としており、新しい生産供給体制の確立と全国展開を進めています。また、苗木商や地域の自治体と連携して、生産供給体制の確立に取り組んでおり、農業者一人当たりの労働生産性を大幅に向上させることを目指しています。この海外品種は、令和7年2月に広島県の実証農場での定植が計画されています。

次に、実証コンソ以外の外部の優良産地モデルとしての取り組みが、株式会社REDAPPLEと、とびあ浜松農業協同組合から紹介されました。株式会社REDAPPLEは家族経営からスタートし、需要を超える供給を背景に、直接販売を主体としています。また、園主クラスの人材育成に注力しています。

とびあ浜松農業協同組合では、選果場の省人化/省力化や生産者とJAの情報交換のスマート化を進めており、特に同JA管内の生産者の平均年齢は70歳を超えているなか、スマホを利用したアプリの導入・定着に向けたプロセスについて参考になる事例を紹介しました。同JA管内の柑橘部会では、現在90%のアプリ導入の割合を100%にしていこうと目指しています。

以上、本セミナーでの共有が参加者にとって具体的な行動変容を促す契機となり、産地間や産地と実需間の連携を深めることで、持続可能な生産体系としての果樹農業の未来を創造するための一歩となることを願っています。

中央果実協会からのお知らせ

令和6年度果樹農業における担い手の育成・確保及び活躍表彰の
受賞者の取組みと事例発表会

— 情報部 —

令和6年度果樹農業における担い手の育成及び活躍表彰は、農林水産省の後援を得て、我が国の果樹農業の担い手の育成・確保のための優れた取組み、省力栽培技術の導入や市場開拓など新しい取組みをしている組織や生産者、法人等を表彰し、その取組みを広く紹介することにより、担い手育成・確保の取組みへの波及を促し、我が国果樹農業の発展に資することを目的として実施しています。

本表彰は、令和5年度から開始され、今年度が2回目の表彰実施になります。

担い手の育成・確保の部では10組織が、活躍する担い手の部では6生産者(個人及び法人)が、それぞれ表彰されました(右表)。以下に各部の受賞者を紹介します。受賞者の紹介や式典等の詳細は、次のサイトをご覧ください。

<https://www.japanfruit.jp/producer/tabid153.html>

【表彰式典】

表彰式典は、令和7年1月20日にオンラインで開催されました。

当協会村上理事長の挨拶の後、農林水産省大臣官房佐藤生産振興審議官から祝辞を頂きました。式典では、各受賞者の取組みが紹介され、オンラインで出席した受賞者へのインタビュー行われました(写真1)。

表 令和6年度果樹農業における担い手の育成・確保及び活躍表彰 受賞者一覧

①担い手の育成・確保の部

【農林水産省農産局長賞】

えひめ中央農業協同組合

【中央果実協会理事長賞】

大分県佐伯市米水津色利浦地区

有限会社 藤川果樹園

芦北地方農業振興協議会

ふくしま未来農業協同組合

鹿児島県園芸振興協議会
大島支部果樹技術部会

ひろさき農業総合支援協議会

農事組合法人 くだもの畠

稲毛田梨団地利用組合

公益財団法人 東松山市農業公社

②活躍する担い手の部

(敬称略)

【農林水産省農産局長賞】

株式会社フルーツオンザヒル

代表取締役 齋藤 勝彦

【中央果実協会理事長賞】

一休農園

島田 雄一郎・島田 幹子

株式会社日本農業

株式会社ウィズファーム

代表取締役 森下 博紀

農事組合法人 世羅幸水農園

矢口 鉄也



(村上 理事長)

(佐藤 生産振興審議官)

(JAえひめ中央(林 経営支援課長・
福本 新規就農研修センター長))((株)フルーツオンザヒル
齋藤 代表取締役)

写真1 表彰式典(R7. 1. 20 開催)の様子

【事例発表】

さらに、令和7年2月3日に、本表彰の担い手の育成・確保の部で受賞した組織の取組みから、トレーニングファームや生産者園地における新規就農希望者等への研修の取組みについて、代表的な事例の発表と意見交換が行われました。まず、中央果実協会から、果樹産地での研修園運営と樹園地継承等の特長と課題が報告され、その後、次の4組織の取組み事例の発表が行われました。

- ① JAえひめ中央における新規就農支援の取組について
- ② 有限会社藤川果樹園における果樹農業の後継者・担い手育成の取組み
- ③ 芦北地方農業振興協議会における取組み
- ④ 『次代につなぐ就農支援対策』 JAふくしま未来の取組みについて

〔JAえひめ中央の発表概要〕

- ・平成25年に耕作放棄直前の園地をJAが借受け研修圃場を整備し、平成27年に新規就農研修センターを創設。
- ・研修園の樹種は中晩柑類(紅まどんな、せとか等を含む)が主体でハウスも整備。
- ・JAが空き園地、倉庫等の情報収集をし、栽培品目に適するか現地確認を行い研修修了者に斡旋し、最低60a以上の園地を継承できるようマッチング。
- ・耕作放棄地は研修生が開墾・新植し独立就農時に継承。研修期間中に成園の借入れ案件があった場合、研修センターが中間保有的に借受け、研修修了時に継承。
- ・JAと行政が就農後の経営・技術指導を実施。青壮年部中央ブロックを設立し、新規就農者等の仲間同士で地域とのつながりを持つ場を提供。

〔有限会社藤川果樹園の発表概要〕

- ・平成21年から県内外の就農希望者を研修生として受け入れ、同社に「まるい未完塾」を設けて、かんきつ栽培のノウハウ(農作業方法、会社経営、販売対策)を研修。
- ・研修生は正社員として雇用し、研修期間2年を基本に、個々の状況に応じて4～5年の長期研修も実施。
- ・近隣の畑を集約・取得して2haの研修園を整備。研修1～2年目に同研修園で全体作業を、2～3年目以降は実際の園地で新植・改植(品種選択を含む)から生産管理・収穫・出荷等の実践研修を実施。

- ・近隣の空き園地情報を収集・斡旋して研修修了時に園地借受けの支援や、独立就農後の果樹研究同志会への入会費用の補助、栽培管理作業の手伝い、収穫物の買い取りによる収入保証等、経営安定に向けた伴走支援を実施。

〔芦北地方農業振興協議会の発表概要〕

- ・芦北地域での就農希望者誘致、技術習得、就農、営農定着までワンストップで支援するため、平成30年度に「新たな担い手確保対策プロジェクトチーム」を設置。
- ・就農希望者を対象とした産地見学バスツアー、お試し研修等により積極的に募集するとともに、新規就農希望者との意見交換や就農準備にかかる研修計画の作成、住宅の確保等の支援により、新規参入希望者の就農への不安と認識ギャップを緩和。
- ・JAが離農や規模縮小する生産者から成園を引き継ぎ、新規就農者の継承用「リリーフ園地」として一時管理。園地やハウスの簡易な整備、修繕を行うとともに、リリーフ園地近隣の放任園もリリーフ園として活用。
- ・リリーフ園地は、研修生の実習園地として活用するとともに、新規就農時には地権者との間を仲介しその園地を継承。

〔JAふくしま未来の発表概要〕

- ・JAふくしま未来管内は、桃、夏秋キュウリ、あんぼ柿等全国有数の果樹・野菜産地であり、高齢化で農家がリタイアしても生産量を減らさないために新規就農者を受け入れる「のれん分け方式事業」を令和4年度から開始。
- ・同事業では、営農相談から研修・就農までをステップアップ方式で支援し新規就農者の速やかな技術力・経営力の向上を図るとともに、JA中心に関係機関との連携と役割分担により、就農計画の作成、農地、機械・施設、住宅、資金の確保等に関する一元的な相談体制により、地域での円滑な就農を支援。
- ・研修は、受入れ先農家(師匠)の指導の下で営農技術を習得。ステップアップ方式により研修1年後に就農するケースも。希望する研修者には実際の園地を設けて栽培技術の研修を行い、その園地を継承。
- ・JAの「就農支援担当者」が研修者や就農者に地区内の耕作放棄地や遊休農地を斡旋し、JA資金や中古農機等の情報提供・支援により、耕作放棄地等を再生。

(公財)中央果実協会

編集・発行所
公益財団法人 中央果実協会
〒100-0011
東京都千代田区内幸町 1-2-1
日土地内幸町ビル 2F

電話：03-6910-2922
FAX：03-6910-2923

編集・発行人
今井 良伸
印刷・製本
(有) 曙光印刷



Web サイト
URL:
www.japanfruit.jp



写真2 事例発表会 (R7.2.3 開催) の意見交換の様子

(上段 中央; JA えひめ中央営農部・林諭 経営支援課長、右; 農事組合法人くだもの島・佐藤尚利 代表理事)

(中段 左; 有限会社藤川果樹園・藤川寿夫 代表取締役、中央; 公益財団法人東松山市農業公社・須賀昭雄 氏、右; 鹿児島県大島支庁農林水産部農政普及課・松尾至身 普及員)

(下段 左; 弘前市農林部農政課・片岡卓也 主査、中央; 熊本県芦北地域振興局農林部普及・振興課・上村浩憲 普及員、右; JA ふくしま未来営農経済部・佐藤剛 営農経済企画課長)

【意見交換】

事例発表の後、事例発表者に加えて、鹿児島県園芸振興協議会大島支部果樹技術部会、ひろさき農業総合支援協議会、農事組合法人くだもの島及び公益財団法人東松山市農業公社の受賞組織関係者の方も参加して、意見交換会が行われました(写真2)。

意見交換会は、1) 果樹農業の後継者・担い手の育成に当たって重要なポイント、2) 研修や園地継承等の果樹特有の難しさ、の2つのテーマで行われました。

各出席者からは、活発な意見が出されました。

事例発表及び意見交換の動画は以下のサイトから視聴できます。

事例発表及び意見交換の動画は以下のサイトから視聴できます。

<https://www.youtube.com/live/dkUB60AkWJk?feature=share>

業務日誌

- 7. 2. 3 令和6年度果樹産地における後継者・担い手育成の取組事例発表会(第2回) (於 航空会館及びリモート開催)
- 7. 2. 5 令和6年度道県果実基金協会業務運営協議会 (於 航空会館)
- 7. 2. 17 令和6年度果樹経営支援対策事業等実施評価委員会(第2回) (於 航空会館)
- 7. 2. 20 第26回全国果樹技術・経営コンクール表彰式 (於 法曹会館)
- 7. 3. 5 令和6年度第3回理事会 (於 航空会館及びリモート開催)